

2 グラフィックデザイナー 宇野亞喜良

グラフィックデザイナーの宇野亞喜良は、1950年代から仕事を始めました。このころの日本は、戦争のあとで、広告の仕事が増えていました。宇野は、1953年に、日宜美展（広告の美術の展覧会）で選ばれて、有名になりました。1956年には、カエルの絵が広告の賞で1等になり、さらに注目されました。その後、カルピス食品工業で広告を作り、文字と絵を組み合わせたデザインを多く作りました。1959年には「21の会」に参加し、ほかの作家と交流しながら、自分のデザインを深めました。